
素となるモノ

西

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
素となるモノ

【Nコード】
N1325T

【作者名】
西

【あらすじ】
食べた物が身体になる。だから私は・・・

（前書き）

ちよっぴりカニバリズムです。

母は何度も繰り返した。「食べた物が身体になるのだから、選んで食べなきゃいけないよ」私は母の言葉に頷きそれからずっと、身体に良い物を選んで食べた。食べたものは私の血になり肉となり、私の身体を日々作り上げていく。

だけどなぜだろう・・・何かが足りない。

私には恋人がいた。私の通う高校の数学の先生で、笑顔がとても優しい人。だけど先生は私のことを一番に好きじゃなかった。私と付き合っていて、「愛してる」と言っていたのに、その口で私の親友に同じ言葉を言うのだ。

あの子が彼を好きだということは、知っていた。彼も、あの子のことを入学した時から気に入っていた。だから私は、彼があの子を好きになる前に私のモノにした。あの子はとてもいい子。ちよつと馬鹿だけどそこが可愛くて、おっとりしていて、いつも私の後ろを付いて回る可愛い子。たとえ想い合っても、親友から恋人を取るなんてできない優しい子だ。

私はどうしても別れたくなかった。彼が謝るのなら許そうとそう決めて、私は彼のマンションを訪れた。大丈夫・・・彼は私のことを愛してると言っていた。きつとあの子と火遊びをしようとしてるんだ・・・きつとあの子のことは諦めて、また私の所に帰って来てくれる。そう、確信していた。

「僕はあの子が卒業したら、結婚しようと思ってる」

手にした包丁には、人の油と血がねつとりと付いていてこれ以上切れるのか不安になった。血抜きのある肉ならまだしも、今日の前にあるのはまだ温かみと血の残る肉だ。こんな小さな包丁じゃ切り分けられるわけが無い。それに骨だって私の力じゃ、切れるわけない。どうやって切り分けるか考えたが、何も思い浮かばなかったの
で私は台所からコップを二つ持ってきた。

この部屋に置いていた私専用のピンクのコップ。あの子が私と彼にお揃いで買ってくれた大切なコップ。床にコップを置いて、彼の右手首を切り裂く。まだ温かい彼の血はぽたぽたとピンクのコップに落ちていく。真っ赤な、真っ赤な彼の血。私を裏切った、裏切り者の血。

彼の血は、温かくて鉄の味がして喉につかえる感じ。美味しくはないけれど、私は彼の血を身体の中に流し込んだ。喉を通して、ああ、今、私の胃の中にいる。

お母さんは言った。「食べた物が身体になる」って……じゃあ私の身体はきつと、彼になるんだ。優しくて、たまに意地悪で……そして私を裏切ったちよっぴり残酷な彼に。そう思うと、嬉しかった。

「彼になったら、あの子は私を愛してくれるかな？」
目の前には彼の素が一人分。

（後書き）

親友が好きだったけど、自分のモノにはならないから親友の好きな人を自分のモノにして誰のものにもならないようにしようと考えたけど、結局は彼が彼女を諦めきれなかったから殺して食べて、私が彼になろうとちょっと頭の逝っちゃった女の子でした。はじめフアンタジーで描こうと思ってたのにどうしてこうなった（＾o＾）
/

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1325t/>

素となるモノ

2011年10月9日00時24分発行